医学博士のメディカル・コラム

# 病気が教えてくれるもの

## 第28回　人生の主役

世の中には善と悪が存在する。もしも、この世に悪が存在せず、善しかなければどうだろう。善が善であることが分からず、悪から善へと変革していく喜びも味わえないだろう。つまり、悪は相対的な意味において、人間の心の成長や喜びのために必要なものかも知れない。

では、健康と病気という対比はどうだろうか？この世に病気が全く存在せず、皆がずっと健康であったらどうだろうか？幸せだろうか？否、健康が当たり前であれば、健康であることへの感謝の気持ちは起こらない。病気があるからこそ、健康であることの有難みが分かるし、病気にならないよう健康を維持する努力も生まれる。そこにも人間の心の成長や喜びを育む糧が存在する。やはり、病気にも何か意味があるのではないだろうか？

この世に存在するもののほとんどは「原因と結果の法則」で成り立っている。病気という結果に至るには、そうなる何らかの理由が必ずあるはずだ。病原菌や体質、遺伝が原因のこともある。けれども、人生にとって大切な「気付き」を得るためのチャンスとして病気になることもある。例えば「生活習慣を整えなさい」というメッセージで病気になることも多いだろう。あるいは「病気を生み出している心の傾向性に気付きなさい」ということで病気になることもある。マイナス思考、取り越し苦労、持ち越し苦労、嫉妬、劣等感、自己卑下、怒り、完全主義など…。病気にならなければ気付かない何かがきっとあるはずだ。

心が体調に支配され、病気に振り回されて、病気を「人生の主役」にしてしまうのではなく、そこから主役を奪い取って、人生を好転させる「気付き」を得ることが出来たなら、この世に病気が存在する事の意味が見えてくるのではないだろうか？

医学博士　木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



医療法人
きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617
麻生区片平5-24-15　きむら内科クリニック　麻生区　検索